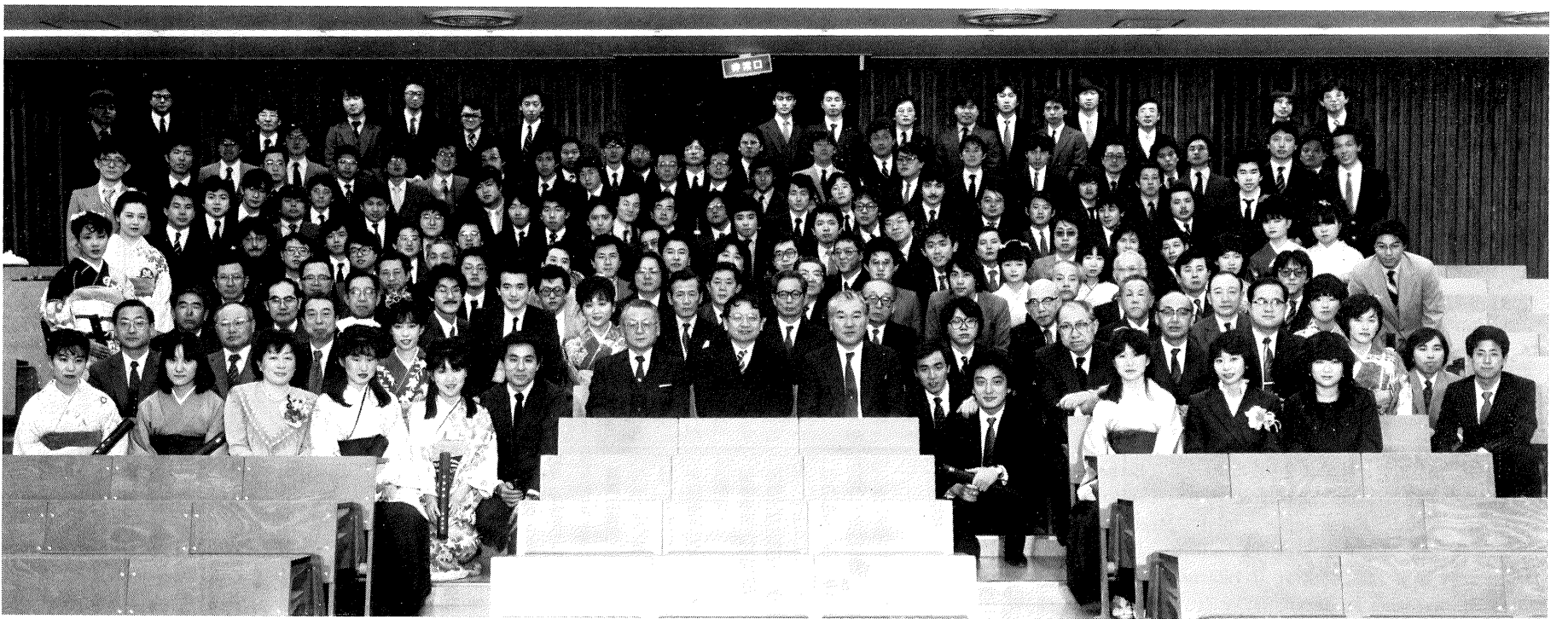




祝 卒 業 昭和58年度第7回卒業生

接臓器浸潤(+)。あるいは縦隔リンパ節転移(+)のいわゆるⅢ期症例の外科療法をいかにするかが問題である。なかでも、Z₁の術前診断と郭清法に興味を持っており、これを中心に臨床研究をすすめたいと考えている。

整形外科講師
花村 達夫



昭和四十八年に九大医学部卒業し、発足したばかりの本学整形外科教室に入局しました。それ以来十一年、途中大分日赤病院への出張がありましたが、ずっと教室に在籍し高岸教授のご指導を受けています。元来なまけ者の私ですが、高岸教授、松崎助教授はじめ、教室の諸先輩の診療、研究に対する熱意にまき込まれて、今迄何とか仕事をこなして来られたと思っています。教室では「手の外科」にかかわる仕事が多いのですが、慢性骨髄炎の治療に興味を持っており、学位論文のテーマは抗生物質の徐放性錠剤の骨髄内局所投与に関するものです。今後臨床応用面で研究を続けていきたいと思います。

仕事の話はさておき、私は大変道楽の多い人間です。趣味というにはやや面映ひく、それ程高尚なものでもない私の場合は道楽と自称しているのですが、現在三ツツに凝っています。その他麻雀将棋、ゴルフ、マイコン、果ては公営ギャンブルに至るまで、各分野に浅い造詣を持っています。『しゃりくり』は「……私の母が、亡き父を弔撫してそう呼んでいたのを思い出します。しゃりくり返った孝八さんという意味でしょうか、要するに何か始める場合、道具やいたが先行して実の伴わない人物をさすもの、父が高価な釣具道具を揃えていざ出かけては、釣果は決して同行者を上回ることがなかったなどという事実は、典型的『しゃりくり』のこころは「……」であつたのでしよう。私も数年前、突然油絵を始めると称して、油彩の道具をあれこれ買い込んだ挙句、2、3ヶ月でキャンパス十枚もかいた

海外便り

フルトにて

岩崎 宏

西ドイツに参りまして早くも二度目の冬が終ろうとしています。帰国まであと二ヶ月となり、今までの研究をまとめているところで

昨年の秋には菊池教授および九大の遠城寺教授が訪独され、私のものフランクフルト大学医学部病理学研究所において、それぞれ、T細胞性リンパ腫と軟部組織腫瘍について講演され、非常に高い評価を受けておられました。

私の方は、昨年の十月に Alexander von Humboldt 財団の招待で三週間にわたって西ドイツ全域および東西ベルリンを周遊する研修旅行に参加しました。参加者はいくつかのグループに分けられ、私のグループでは日本人は私と京大工学部の北野博士だけで、他はアメリカ、イギリス、インド、オランダ、チリ、中国、

でしようか。現在は厚いホコリをかぶつたままです。また昨年は、マイコンを買い込んで当初は、連日深夜、三時までいじくり回していましたが、最近マイコンゲームの方が主な用途になり果ててしまっています。これらの事例は、母にみれば「親子とはよう似たもの」と必ず痛痒をくらうておられるが、私は父からうけつたしゃりくりこころは「精神」をむしろ大切にしたいと考えています。一冊の本を買って、何か一つでも得るところがあれば、それはとてもいいと思うのです。油絵の道具の代償に得たものは、一つは自分絵の才能がないのを発見したこと、もう一つは絵をみる楽しさが少しわかって来たことです。マイコンにしても自分でいじり回してみれば、何でマイコンに何かがせられるか、が分かって来るもの、道楽の話ばかり書きましたが、いろいろなものに対する素直な好奇心を失つと精神は老化する、夢中になれる余暇を過ごしてこそ良い仕事も出来るという信念で、今後仕事に道楽に頑張っていきたいと思ひます。

に達しているのに、本年度からは医学部新卒者の数が従来よりも増えて、毎年一万人以上の新卒医師が研修先あるいは就職先を捜すことになる。西ドイツの人口は日本の約半分であるのに新卒医師の数は日本より多く、人口比にすると西ドイツは日本の倍以上の新卒医師を抱えている。医師の失業率もすでに出現しており、今年はその数が五千人以上に達すると見られています。この問題を解決するために開業医の停年制導入や勤務医の超過勤務時間短縮などが提案されていますが、どれも決める手にはならないようです。根本的な原因は医学生数の多過ぎること、どの大学にも一学年当り三百五十人の医学生がいて、講義、実習ともにマスプロ化しています。このため医学教育の質の低下は避けられず、特に臨床修練(SGT)を効果的に行うことはほとんど不可能といつていい状態です。そして新卒医師は医師免許を持っているものの、医師としての能力に著しく欠けることが週刊誌や新聞でも取り上げられ、大きな問題になっています。医学教育の不足を補うために、義務的な卒業後研修期間を十八ヶ月に延長する案が現在国会で検討されていますが、大学や公立病院など人員設備の整った研修機関が今までの不足している、たとえ法案が成立しても十分な研修を行くことは不可能と考えられています。日本でも最近医師過剰時代に入つてあるといわれていますが、西ドイツに比べればまだその程度は軽いでしょう。しかし、西ドイツの現状は将来の日本の医療および医学教育にとって大きな教訓となりうると思えます。我々も今から手を打っておかなければ早晩西ドイツの状態に近い困難に直面することになるのではないかと恐れています。

フィラデルフィア
小児病院より

丹生 恵子

フィラデルフィアの夏は雷雨とともにはじめます。夕方になると空がまっ暗になり、突然大粒の雨がビシビシと小石のように降つて、道路には水があふれ、ゴロゴロ、バリバリ、ストーンと雷がなりだします。地震、雷火

当地区は、米国の東部五大湖の一つエリー湖畔に位置しており冬の厳しい所です。着いた頃には、見渡す限りの枯木ばかりで所々に雪が残りの、殺風景で何と寂しい所へ来たものかと思ひていました。最近はやつと緑が多くなり、暖かな花も咲きはじめては気分も落ちついてきました。

今回の研究課題は牛の視床下部のナトリウム利尿因子の精製というところですが、当所でも初めて手がける仕事のため全く初歩から自分で始めなければなりません。さあ、四月中旬の二週間 Maryland 州 Bethesda の NIH の近接する Uniformed Services University 生理

学教室の Haddy 教授の実験室に利尿因子のアッセイ法の習得に行き二つの方法を学んで帰りました。この時はついでに首都(Washington D.C.)見物をするつもりでいました。

現在、クリーブランドのアッセイ法の確立を急いでいる段階です。必要な機械、器具など全て二週間で揃えることができた、その早さに驚きました。また、日本では洗浄して再使用していたような試験管などが大半が使い捨てで使っており、さすが物資の豊富な国だなと感心する一方、もったいなく

かと思ひておられる方が、テックニシャンも専属で付いてくれるので、不便はないのですが、最大の悩みはスタッフ、テクニシャンとの会話です。ジェスチャーをまじえて何とか通じるのですが、一日中緊張と恐怖の連続です。毎日八時半頃出勤して五時半頃帰宅という生活を送っています。四月末からサマタイムになっています。四月末から帰るときはまだ日が高く何うしろめたい気持ちです。こちらの人は皆、朝が早く、七時半頃には駐車場一杯になり、そのかわり夕方四時半頃には帰る人が多い様です。一応週休二日ですが、研究所では土曜の朝八時半から十時までセミナーが開かれています。

今回の課題のような研究は日本でも充分やれると思うのですが、外国留学の意義は新しいことを学ぶというのみではなく、同じ分野の研究者と広く意見を交換でき、また、いろいろな雑事(例)に煩わされず研究に専念できること、これも大きな利点ではないかと考えています。このような機会を得られたことを感謝しつつ頑張ってみようと思います。そして研究以外にも外国生活を充分楽しみたいと思ひます。

クリーブランド

研究所にて

出石 宗仁

三月下旬、あれだけ日本を離れ、クリーブランドクリーニックの研究所へ参りました。当研究所には、所長の Dr. Tarazi, Fouad Sneyd, Khosla ら文獻など、深い人々がおり、また福大二年生の荒川教授や土居 中島先生らの留学された所でもあります。現在も日本からの留学生が多く、Cardiovascular の部門だけでなく私を含めて十一人おられます。さあ、この大チャンスにどう頑張るか、所長の Dr. Nose 以下約二十人の日本人ドクターが働いています。

海外・国際学会研究発表

向野義人 (内科学第二): ①The effects of ear acupuncture on rats with hypothalamic obesity. ②World Congress on Scientific Acupuncture. ③Austria. ④58.10.~10.20.

小田嶺一 (小児科学): ①Effect of coenzyme Q₁₀ on the abnormal myocardial performance in patients with mitral valve prolapse and with symptoms. ②1st World Conference on inflammation, New Perspectives on Ubiquinone therapy. ③Italy. ④59.4.16~4.18.

利谷昭治, 田代研児, 林紀孝 (皮膚科学): ①Erythema nodosum-like lesions associated with Leukemia. ②The Third Korea-Japan Joint Meeting of Dermatology ③Korea. ④58.10.7~10.8.

林紀孝, 利谷昭治 (皮膚科学): ①Infections humaines par M. gypseum au Japon. ②Société Française de mycologie médicale. ③France. ④58.11.25~11.26.

児玉好史 (外科学第二): ①Early gastric carcinoma, growth patterns and prognosis, Cytophotometrics DNA analysis and detection by mass surgery. ②International Congress Advances in the Chemotherapy of Gastrointestinal. ③West Germany. ④58.10.28~10.29.

夏田康則 (外科学第二): ①Delayed anastomosis of cervical esophagus in bypass operation for unresectable esophageal cancer. ②Second International Congress of the International Society for Disease of the Esophagus. ③Italy. ④58.10.4.

福島武雄 (脳神経外科学): ①Craniopharyngioma in childhood—Trans-lamina terminalis approach and its endocrinological evaluation—. ②Asian Australasian Congress of Neurological Surgery. ③Hong Kong. ④58.11.20~11.25.

金岡毅 (産科婦人科学): ①Symposium on 'fetal physiology' "fetal growth and growth retardation" as keynote address. ②3rd Asia-Oceania Congress of Perinatology. ③India. ④58.12.18.

守田則一, 塩飽徳行, 井上幹夫 (健康管理学): ①Immunogenetic studies on inflammatory bowel disease: HLA antigens of the patients with ulcerative colitis in Japan. ②US-Japan Discussion on Inflammatory Bowel Disease. ③U.S.A. ④58.6.2.

守田則一 (健康管理学): ①Marginal vitamin A deficiency and cancer: Vitamin A and its binding protein in serum of patients with cancer. ②Conference on Vitamin A and Cancer Prevention sponsored by the U.S. Malnutrition Panel of the U.S. Japan Cooperative Medical Science Program. ③U.S.A. ④59.2.28~2.29.

教室 便り

学位取得

野崎藤子 (解剖学第二)	三月二十四日付で医学博士授与。
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "Perinatal cells in the dimensional organization of the adrenal cortex in the monkey"
外園恵介 (解剖学第二)	三月二十四日付で医学博士授与。
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "Scanning and transmission electron microscope study of lymphatic vessels in the Spleen white pulp of the Macaque monkey"
山田勝士 (薬理学)	福岡大学に提出。昭和五十八年十一月十六日付で医学博士授与。
学位論文 "Direct evidence for involvement of dopaminergic inhibition and cholinergic activation in yawning"	徳永恒夫 (薬理学)
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "Angiotensin II of the central blood pressure regulation in taurine, γ-aminobutyric acidによる拮抗"
村山 寛 (病理学第二)	九州大学に提出。昭和五十九年三月二十七日付で医学博士授与。
学位論文 "Solid carcinoma of the stomach. A combined histochemical, light and electron microscopic study."	三井徹次 (病理学第二)
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "Confirmation of direct angiotensin formation by kallikrein"
清水 明 (内科学第二)	福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。
学位論文 "Efficacy of aerobic exercise therapy for hypertensives and plasma renin activity"	高良由貴夫 (精神医学)
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "うつ病の遷延化に関する研究"
堀田博明 (精神医学)	福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。
学位論文 "外来通院治療からみた精神分裂症患者に関する研究—特に適応水準と外来治療形態について—"	岡崎正敏 (放射線医学)
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "肝臓の血管造形門脈系"
池田正春 (内科学第二)	福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。
学位論文 "肝臓の血管造形門脈系"	

受賞

研究業績「腫瘍細胞膜上の自己補体認識因子について」	昭和五十九年二月二十日、財団法人高松宮妃癌研究基金から表彰を受ける (東京都港区・国際文化会館)
清水 博 (産科婦人科学)	福岡大学に提出。昭和五十八年十一月十六日付で医学博士授与。
学位論文 "細胞内 redox stateからみた anoxia 負荷前後の成体および胎仔モット灌流肝の代謝について"	吉武英憲 (産科婦人科学)
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "ヒト虫垂リンパ小節の立体構造について"
松岡 功 (産科婦人科学)	福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。
学位論文 "Ion-sensitive field-effect transistor pH and Pco ₂ sensors による胎児生化学的監視法の基礎的研究"	宗清正紀 (健康管理学)
福岡大学に提出。昭和五十九年三月二十四日付で医学博士授与。	学位論文 "肥満に関する研究—とくに一職域集団における肥満者の実態と、肥満教室による対策に関する—"
岡田秀親 (微生物学)	昭和五十八年度高松宮妃癌研究基金研究助成金
山田 徹 (アイオウ大学神経科)	

学術交流

昭和五十八年十月以降の海外留学又は海外出張者は、以下のとおり。①研修先②目的③期間

出石宗仁 (内科学第二)	①アメリカ②カリフォルニア州③研究④59.4.1~60.3.31
野原 薫 (小児科学)	①スウェーデン②カロリンスカ研究所③人エリファクタント (肺表面活性物質) の研究④59.4.1~59.10.1
古川達雄 (薬理学)	①アメリカ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席③59.1.25~59.2.2
坂口正剛 (内科学第二)	①タイ②インドネシア③講演及び実技指導④59.2.16~59.2.19
向野義人 (内科学第二)	①オーストラリア②World Congress on Scientific Acupuncture 出席③58.10.17~58.10.20
小田嶺一 (小児科学)	①アメリカ②カリフォルニア州③研究④59.4.16~59.4.18
利谷昭治 (皮膚科学)	①韓国②利谷昭治 (皮膚科学) ③韓国④58.10.7~58.10.8
東 義孝 (放射線医学)	①チリ②超音波診断の指導③58.11.7~58.12.15
児玉好史 (外科学第二)	①西ドイツ②International Congress Advances in the Chemotherapy of Gastrointestinal Cancer 出席③58.10.26~58.11.8
夏田康則 (外科学第二)	①ローマ②Second International Congress of the International Society for Disease of the Esophagus Rome 出席③58.10.26~58.11.8
福島武雄 (脳神経外科学)	①香港②アジア・オセアニア脳神経外科学会出席③58.11.20~58.11.26
高岸直人 (整形外科)	①台湾

新刊紹介

①書名 ②発行所 ③発行年 ④価格	
菊池昌弘 (病理学第二) ①外科病理学 (分冊) ②文芸堂 ③59.4.14 ④〇〇〇円	
八尾恒良 (内科学第二) ①内科学 (分冊) ②腸結核、小腸腫瘍 ③朝倉書店 ④59.4.14 ④〇〇〇円	
八尾恒良 (内科学第二) ①新臨床内科学 (分冊) ②クロン病、非特異性腸管潰瘍、腸結核 ③医学書院 ④59.4.14 ④〇〇〇円	
荒川規矩男 (内科学第二) ①最新治療指針と処方集 (分冊) ②動脈炎候群、高血圧症、低血圧症 ③大道書館出版部 ④59.4.14 ④〇〇〇円	
向野義人 (内科学第二) ①オーストラリア②World Congress on Scientific Acupuncture 出席③58.10.17~58.10.20	
小田嶺一 (小児科学) ①アメリカ②カリフォルニア州③研究④59.4.16~59.4.18	
利谷昭治 (皮膚科学) ①韓国②利谷昭治 (皮膚科学) ③韓国④58.10.7~58.10.8	
東 義孝 (放射線医学) ①チリ②超音波診断の指導③58.11.7~58.12.15	
児玉好史 (外科学第二) ①西ドイツ②International Congress Advances in the Chemotherapy of Gastrointestinal Cancer 出席③58.10.26~58.11.8	
夏田康則 (外科学第二) ①ローマ②Second International Congress of the International Society for Disease of the Esophagus Rome 出席③58.10.26~58.11.8	
福島武雄 (脳神経外科学) ①香港②アジア・オセアニア脳神経外科学会出席③58.11.20~58.11.26	
高岸直人 (整形外科) ①台湾	

編集後記

池の手前よりみた医学部は、研究棟別館やR1研究棟が増設されて以来、ここ数年同じ姿のままである。しかし裏の方では、医学情報センターの建物が増設し、現在移転が進められ、充実した形での開館も近い。また病院の増設についても、建物そのものはすでに姿を現わし、現在内部工事が進められている。このように現在でも医学部の外面および内面での充実、長期展望のもとに進められている。(古川記)